

2026 年 50.240SSB モービルグループ技術講習会録

会場：立川市砂川学習館 日時：2026/07/12：00～16：00

司会：JA1RIZ 記録：JA1WOB

はじめに、参加局の近況報告が行われました。

- ・ JA1RIZ JA1WOB JA1VWB JE1VGJ JJ1DLU JJ1SXA
- ・ JJ1SXB JK1GBE JK1SBK JL1PPM JM1LZT 7L2WVR

計 12 名の局の参加でした

I 電波伝播実験関係（担当：JA1RIZ）

5 月 31 日に行われました電波伝播実験の報告及び検証並びに反省等

- ① 電波伝搬実験概要 8 ポイント移動局+コントロール局+固定局の計 13 局の参加でした。

- ② 最北端に位置した局は、JJ1SXA/1 局で、最南端・最東端は、JK1JWV/1 であり、最西端は JR2CTR/φ 局が位置していました。東西に約 217 km、南北に約 164 km のエリアの中に各局が展開していました。

- ③ 最長距離は、両局ともモービルアンテナ設備の交信として、JR2CTR/Φ（長野県・御嶽スカイライン）⇔ 7L2WVR/1（栃木県・勝雲山駐車場）でした。共に RS（55/51）で交信成立しました。

・ 伝搬距離は 195.75 Km でした。単純計算の見通し距離 = $4.12(\sqrt{2087} + \sqrt{1287}) = 336.0\text{km}$ で遮へい物がなければ見通しですが、途中の山岳遮蔽によって、かなりの減衰があったと思われます。また、送受のレベル差は検討の余地があると思われます。

・ この見通し距離の計算式の解説も詳しく行われました。

- ④ 今回の最多ポイント交信数は、6 ポイントの 7L2WVR/1、4 ポイントの JA1WOB/1 の各局で、苦戦を強いられた諸氏が多かったようです。

- ⑤ 電波伝搬実験参加ルールの確認

50.240SSB モービルグループの電波伝搬実験の参加にあたっては、移動場所と使用アンテナ使用及び RIG を事前エントリーする事になっています。この事前エントリー情報を基に、コントロール局が遠方移動局からの実験開始順番決めを行ったり、実験データの解析に、移動場所の緯度/経度などから伝搬距離などを求める為に事前エントリーをして頂いています。当日参加となった場合は、どんなに遠方に移動していても、実験時間は最後となります。

II 技術講話

(1) 電子QSLについて (担当：JA1WOB)

近年、インターネットの普及により、QSLカード交換が下記の様にネットで行われる様になりました。

1, EQSL・・・サーバーによる QSL サービス

QSLはHAMLOGのログデータが基本となるので、HAMLOGからFT-8などの特定のモードを抽出する方法やEQSLにアップデートする方法の説明

また、WSJTXでQSOしたFT-8データをHAMLOGと連携する方法も含めて説明

2, HQSL・・・Hamlogと連携してE-MailによるQSL転送サービス

HamLogにユーザー登録しているJARL会員である事が前提条件になります。

HQSLをダウンロードで、メール設定を行う、メールアドレスHQSL専用にし方がなにかと便利です。

Hamlogのログデータから届いたQSLカードを参照する事ができ便利です。

3, 誰でもQSL・・・サーバーによるQSLサービス

他局どうしのQSLが見えてしまいますので、QTHや名前など注意が必要ですが、JARLの非会員でも利用します。フリーライセンス無線も使用可能です。

4, QSL-WLD・・・QRZ.comに登録したE-Mailアドレスに送信してくる。

DX局がメール添付で送ってくるが、実態はまだ良くわからない

上記、4つの電子QSLのインストール方法や、使用方法を実演交えて説明しました。

(2) マグネット基台の修復にトライ (担当：JK1SBK)

電波伝搬実験中に起きたマグネット基台の不調により、HiSWRとなり送信不可となった。

①同軸ケーブルのMP部分のケーブルの網線とMPコネクタ部分をペンチでカシメたが解決せず

②マグネット基台を止めているナットの緩みを締め直してから、アンテナを取付、SWR値を測定した所、普段使っている値に落ち着きひと安心しました。

その後、マグネット基台を分解してアースが浮いてる、可能性のある部分の修復を試みましたが、分解不可能でした。

・マグネット基台は、ビスを緩めて分解して、同軸の半田修復を出来るものもあります。しかし、中国製のマグネット基台の中には分解不可の物もあるようです (TWO-FORTY 125号を参照)

(3) 6m用 5/8/2 段 G P アンテナの修復にトライ (担当: J K 1 G B E)

故障としては、交信中に急に VSWR が上がってしまう現象(接触不良のような)が発生し、そのうち殆んど HiSVR となって使えなくなりました。

対策としては、①位相整合トラップ内のカシメ部とハンダ部の再ハンダを実施。②基部のローディングコイル先端部の割りピンを少し広げてテナメイトを塗布。③コイルの白い絶縁箇所には再ハンダを実施、④ガタのある箇所は接着剤で固定。再組立は、⑤カットした位相整合トラップのカバーを金属バンドで両サイドを固定後に自己融着テープ でぐるぐる巻きにした。

アンテナ基部の壊したカシメ部は再カシメ不可で動作には影響なさそうなのでそのまま使用した。その後、アンテナをもとのマストに設置し動作確認を実施。

修理結果としては、接触不良はなくなったが VSWR が 2.3 から下がらず、取り敢えず TUNER を入れて 1.1 に下がりどうにか使用できるようになった。

- ・メーカー製の G P アンテナは、トラップの金属カバーやカシメなどは静電容量も考慮して設計されているので、完全修復しないと戻らないかも知れません。(TWO-FORTY 125 号を参照)

※2月16日に改築新装となった、F B な砂川学習館で、技術講習会を実施出来ました。

以上